

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 4 日現在

機関番号：32679

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370113

研究課題名(和文) カトリック宗教改革期におけるローマの宗教曲の資料研究

研究課題名(英文) Source Studies of the Roman Sacred Music during the Catholic Reformation

研究代表者

長岡 英 (Nagaoka, Megumi)

武蔵野音楽大学・音楽学部・講師

研究者番号：00723793

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：カトリック宗教改革期にローマ教皇庁ジュリア礼拝堂楽長を務めたジョヴァンニ・アニムッチャ(c.1520-71)のミサ曲集(ローマ：ドーリコ後継者出版社、1567)は、トリエント公会議で宗教音楽が議論され、その最終規範が遵守されていた時期に、教皇庁で歌われていたミサ曲を収めたと考えられる。各地に数多く保存されている1次資料とその写本の受容状況を調査したところ、書き込みや、声部の追加が複数の楽譜に見つかり、歌詞の聞き取りやすさが重視される特殊な状況が過ぎた後にも歌われていたことが判明した。

研究成果の概要(英文)：Giovanni Animuccia served as magister cantorum in the Cappella Giulia at St. Peters during the Catholic Reformation. His Missarum Liber Primus, which was published by the heirs of Dorico in 1567 in Rome, is an example of the music sung in the Vatican immediately after the Council ended in 1563. Corrections and additions are found in some of the primary sources I have examined. This research reveals that Animuccia's masses had been sung for a while after his death, at least at St. Peter's and other institutions in Rome.

研究分野：西洋音楽史

キーワード：ミサ曲 カトリック宗教改革 ルネサンス音楽 アニムッチャ パレストリーナ

1. 研究開始当初の背景

カトリック宗教改革時のローマの宗教音楽に関する研究は、系統的とはいえない。トリエント公会議(1545-63)で音楽について議論されたり、最終規範が発表されたりした時期のみならず、その後の改革が推進された時期までずっと、ローマ教皇庁ジュリア礼拝堂の楽長であったジョヴァンニ・アニムッチャは、最初に研究されるべき作曲家である。しかし、楽長在職中の1567年に出版した代表作と言うべきミサ曲集ですら、重要性は認められているものの、研究書はおろか現代譜も出版されていない。これは、(逆説的であるが)16世紀イタリア音楽界のヒーロー、パレストリーナ(1525/26-94)のせいである。

カトリック側が自浄化を目指して開催したトリエント公会議で「多声音楽が禁止されそうになったときに、パレストリーナは《教皇マルチェルスミサ曲》を作曲し、それを阻止した」と伝えられる。この時代の宗教音楽は、模倣様式(輪唱のように、各声部がずれて歌い出すこと)を用いた4~6声の無伴奏声楽曲で、歌詞の異なる部分が同時に歌われる。このため、神への祈りである歌詞が聞き取りにくいとして、多声音楽の禁止が議論された。音と歌詞の対応に配慮すれば、歌詞が聞き取りやすいと証明したとされるパレストリーナは、死の直後から神格化され、結果として同時代の作曲家たちを覆い隠してしまう。

しかし、カトリック宗教改革の非常に重要な時期にローマ教皇庁の音楽を司っていたのは、ジョヴァンニ・アニムッチャであった。彼の宗教曲を研究することで、この時期のローマの典礼音楽の実像を示し、トリエント公会議の音楽への影響を解明することが待たれていた。筆者は、小節線が無く、クワイアブック型(図1参照)で印刷されたアニムッチャのミサ曲集を、全声部を揃えたスコアとして現代譜化し、本研究の第一段階をほぼ終えている。



図1: アニムッチャのミサ曲集

2. 研究の目的

カトリック宗教改革(反宗教改革)期にローマ教皇庁ジュリア礼拝堂楽長を務めたジョヴァンニ・アニムッチャ(c.1520-71)の宗教曲研究を通じて、この時期のローマの典礼音楽の実像を示し、トリエント公会議の音楽への影響を解明することを、研究の全体構想とする。アニムッチャの作品群の中で最重要と考えられるミサ曲集は、楽長在職中の1567年に出版された。重要性は認められているものの、本格的な研究はまだ行われていない。現存するミサ曲集の印刷本や手写本の詳細な調査によって、1563年に終了したトリエント公会議の規範に沿って作られ、当時、教皇庁で実際に歌われていたと考えられるミサ曲の実像とその受容状況を明らかにする。

本研究は、カトリック宗教改革期のローマで、作曲家として指導的地位にいたアニムッチャが、改革精神を直接反映させたと考えられるミサ曲の、世界初の基礎研究となる。アニムッチャのミサ曲集のみならず、本研究で同時代人パレストリーナの資料も精査・比較することによって明らかにされる、トリエント公会議との関連を詳述した校訂報告付きの現代譜は、16世紀後半のローマで実際に演奏されていた宗教曲の実像を捉え直し、包括的な理解を可能にするものである。また、現存するアニムッチャとパレストリーナのミサ曲集のオリジナル楽譜を精査することで、16世紀ローマにおける楽譜印刷のプロセスの一端を解明する手がかりも得られる。

3. 研究の方法

カトリック宗教改革時のローマの音楽を解明するために、教皇庁楽長であったアニムッチャの、トリエント公会議終了後に出版されたミサ曲集の資料調査を行う。すでに、当時の印刷本のマイクロフィルムを元に、ミサ曲集の現代譜化を終了している。しかし、マイクロフィルムから得られる情報は限られており、現存するミサ曲集を調査し、学術書としてふさわしい校訂報告を完成させる必要があった。また、手写本に残されたアニムッチャのミサ曲に関しては、どのような状況でどのように手写されているか調査しなければならない。

この分野の専門家であるカリフォルニア大学デイヴィス校学部長のオーエンス教授と問題点を検討した上で、アニムッチャのミサ曲集のオリジナル楽譜の調査を行う。

筆者は、5カ所のミス・プリントに最も興味を持っていた。この時代の楽譜は、小節線が使われておらず、各声部が別々に印刷されている。このため、音符や休符の活字が1つでも抜けると、その声部はそれ以降の全ての音符がずれて、他の声部と合わなくなってしまう。もしもそのミサ曲が実際に歌われていたなら、ミス・プリントは訂正されているはずである。この修正状態やその他の書き込み、特に歌詞と音の対応に関する書き込みが無

いかを、注意深く調べる。また、可能なときはこれらの施設に所蔵されている数多くの出版譜の中から、アニムッチャのミサ曲集と近い時期に出版された、他の作曲家の曲集（たとえば、1567年に出版されたパレストリーナのミサ曲集第2巻や、1570年の同第3巻など）の使用状況も調査する。

写本に含まれたアニムッチャのミサ曲は、まだ誰にも調査・研究されていない。まず、1567年の出版譜に含まれた曲であるかどうかを確認する。印刷譜に含まれたミサ曲の場合は、印刷譜と詳細に比較し、音の変化、歌詞の変化、対応の変化、印刷本のミス・プリント箇所の対応などを調査する。また、写本自体の調査（写本の来歴、アニムッチャの他にどのような曲がどのような順番で収められているのかなど）、使用状況の調査を行う。出版譜と異なるミサ曲の場合は、現代譜を作るためにマイクロフィルム制作を依頼する。また、アニムッチャのミサ曲だけではなく写本自体の調査（写本の来歴、アニムッチャの他にどのような曲がどのような順番で収められているのかなど）や使用状況等の調査を行い、それらの様式や位置づけ（作曲年代の推定など）を研究する。

4. 研究成果

1次資料の調査を行ったのは、以下の図書館である。

1、ジョヴァンニ・アニムッチャのミサ曲集（ローマ、1567）の1次資料

大英図書館
 ロンドン大学セナート・ハウス図書館
 フィレンツェ国立中央図書館
 ボローニャ国際音楽図書館
 ヴァチカン図書館（4冊所蔵）
 カザナテンセ図書館（ローマ、2冊所蔵）
 サンタ・チェチリア音楽院図書館
 サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ教会音楽古文書館（ローマ）
 フランス国立図書館
 ベルギー王立図書館
 モデナ古文書館

計 15 冊

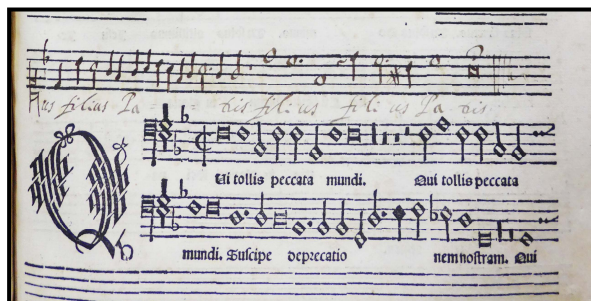
2、ジョヴァンニ・アニムッチャのミサ曲が含まれる写本

ローマ国立中央図書館
 ヴァチカン図書館
 ベルリン州立図書館
 ミュンヘン州立図書館
 ライプツィヒ州立図書館
 デンマーク王立図書館

ジョヴァンニ・アニムッチャのミサ曲集第1巻は、トリエント公会議の規範や、公会議で議論されたものの盛り込まれなかった歌詞の聞き取りやすさを考慮した改革ミサ曲が収められている。これらは特殊なミサ曲で

あり、カトリック宗教改革を推進する期間が過ぎた後は、あまり使用されなくなったと考えられてきた。しかし、調査により以下のようなことが判明した。

- 手つかずのような状態で残っている曲集も多かったが、大小のシミや、ページをめくる際についたと考えられる右下端の汚れ、破れ、その補修など、かなり使い込んだ状態で残っている曲集もあった。
- ファクシミリ版では見分けがつかなかったが、ミスの多くは茶色っぽいインクによって非常に丁寧に修正されていた。
- ミスをはっきりとわかる修正と、ミスが綺麗に削られて正しい音符しかわからない修正のような、複数の方法が見られる個所もあった。楽譜を販売する前に、出版社関係者が、全印刷楽譜を同じように訂正するシステムではなかったことになる。
- ヴァチカン図書館に保存されている4冊のアニムッチャのミサ曲集の中の1冊には、数音の装飾の追加や、音のぶつかりを目立たなくするための音符の長さの変更など、音楽上の訂正や加筆の書き込みが見つかった。さらに、4声のミサ曲の中で、2声部が休み2声部だけで歌う部分に、新たな旋律が書き加えられていた（譜例1参照）。アニムッチャは、歌詞の聞き取りやすさを狙って2声部だけの部分を入れたのであろう。しかし、2声部だけでは響きが貧弱なので、歌詞の聞き取りやすさよりもより豊かな響きを重視して、新しい声部が加えられたと考えられる。
- ローマのサン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ教会の古文書館に保存されているミサ曲集にも、ヴァチカンで1声部が加えられていたのと同じ2声部部分に、ヴァチカンの楽譜とは異なる新しい声部が加えられていた。ここでは2声部が加えられて、4声部になっていた。



譜例1 アニムッチャのミサ曲集の書き込み

書き込みや、声部の追加が複数の楽譜に見つかったことで、アニムッチャのミサ曲集の

受容状況が明らかになった。歌詞の聞き取りやすさが重視される特殊な状況下で作られたこれらのミサ曲は、状況が変化した後も歌われていたことになる。また、今まで行われたことがなかった、現存する同じ1次資料を多数比較する研究により、当時の楽譜印刷プロセスの一端を解明する可能性が出てきた。

2017年3月には、国際音楽学会で「ジョヴァンニ・アニムッチャの『改革』ミサ曲」というタイトルで、口頭発表を行った。アニムッチャ独自のテクスチュアなども注目されたが、特に、同じ部分に2種類の異なる音楽が追加されていた点が、アメリカやイギリス、ドイツの研究者たちの関心を引き、発表後に活発なディスカッションが行われた。中でも、オーガン教授（エジンバラ大学）からの、ヴァティカン図書館所蔵のモラーレスのマニフィカト集の写本にも、同様の声部の追加があるという指摘や、ブラウナー教授（ウィスコンシン大学）の追加声部の筆跡に関するコメントは、今後の本研究の展開のために、非常に有益であった。

ファクシミリ版のオリジナルとされるロンドン大学図書館のミサ曲集の調査により、ファクシミリ版の楽譜が不正確であることが判明した。このファクシミリ版は現在までアニムッチャ研究の拠り所となっているだけに、詳しい校訂報告付きの正確な現代譜の出版を急がなければならないことを痛感した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

長岡 英「ジョヴァンニ・アニムッチャ

のミサ曲 集第1巻：音楽と受容」日本音楽学会第67回全国大会、2016年11月12 - 13日、中京大学名古屋キャンパス。

Megumi Nagaoka “ Giovanni Animuccia ’ s

“ Reform ” Masses ” 20th Congress of the International Musicological Society (IMS2017, Tokyo), March 20 - 23, 2017, Tokyo National University of Fine Arts.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 長岡 英
(Nagaoka, Megumi)
武蔵野音楽大学音楽学部、
講師

研究者番号： 00723793

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()